

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成
事業計画（実行団体）**

事業名(主)	コロナ禍対策きずなセット提供プロジェクト
事業名(副) ※任意	栃木県内フードバンク団体の相互連携強化

入力数 主 20 字 副 19 字

実行団体名	特定非営利活動法人フードバンクうつのみや
資金分配団体名	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク

優先的に解決すべき社会の諸課題

領域	分野
<input checked="" type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援
	<input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援
	<input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援
<input checked="" type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動	<input checked="" type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援
<input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動	<input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援
	<input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援

上記以外 その他の解決すべき社会の課題	<input type="checkbox"/>
------------------------	--------------------------

入力数 0 字

SDGsとの関連

ゴール
_1.貧困をなくそう
_2.飢餓をゼロに
_3.すべての人に健康と福祉を

実施時期	2021年 7月 ～ 2022年 2月	事業 対象地域	全国 <input type="checkbox"/> 特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> (栃木県内全域)	事業対象者： (事業で直接介 入する対象者 と、その他最終 受益者を含む)	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて生活に 困窮している栃木県内居住者、及びその家族	事業 対象者人 数	3,000人
------	---------------------	------------	--	---	--	-----------------	--------

I.団体の社会的役割

(1)団体の目的
特定非営利活動法人フードバンクうつのみやは、市場から外れた賞味期限が残っている食品を受贈し、災害、困窮などでフードセキュリティ（食糧の安全保障）に欠ける人に対して、食品を提供することで生活の立て直しを支援し、安心な社会的ネットワークのある地域社会作り、食品廃棄物を減らすことにより環境の保全の貢献に寄与することを目的とする。
(2)団体の概要・事業内容等
・概要 特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワークの事業「フードバンク宇都宮」を2011年4月より開始。2019年11月に「特定非営利活動法人フードバンクうつのみや」として独立する。 ・事業内容 フードバンク活動を実施し、食品ロス削減・困窮者支援事業を展開。食品提供の際に生活状況の聴き取りを行い、利用者の生活を根本から再建するための「総合相談支援」を実施している。

入力数 (1) 162 字 (2) 186 字

II.事業の背景・社会課題

新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題
雇用が不安定な「派遣労働者」、バイト先の都合によるシフト減・解雇・実家も影響を受けて仕送りが減ったり無くなった「学生」、日本国籍ではないため国や自治体の支援策の対象とならない「外国人留学生」、戸籍上は1人親家庭と認められていない・非正規雇用の割合が高い「1人親家庭」の困窮が深刻で、生活に困窮する人からの食品支援を求める声が増加している。 特定非営利活動法人フードバンクうつのみやの統計データでは、2019年度の食品提供件数は841件であったのに対し、2020年度は2450件となり約3倍になった。 ただ食品を提供するのみではなく食品提供の前に生活状況の聴き取りを行うことで適切な支援を行い、更に生活を根本から立て直すための「総合相談支援」を実施している。 ライフラインの停止・家賃滞納などを抱えたケースが増えており、一度の食品支援では立ち直れないため複数回の支援が必要になっている。 当団体の事務所に来ることができない人も多いため食品を宅配便で送るケースもあるが、受益者から利用料を得られる事業ではないので、緊急時に対応せざるを得ず配送費の確保が課題。 食品倉庫スペース・冷蔵冷凍設備の不足により、大型寄付の打診があった際の受け入れ制限への対策も大きな課題の1つである。 最善の解決策は国や自治体の支援策が困っている人に行き渡り生活に困窮するケースがなくなることだが、制度を改変するにしても即時対応にはならない。 行政の支援策の対象外になってしまう人を支援できることが民間支援団体の強みであるため、栃木県内の他フードバンクとの連携や情報発信を強化し、栃木県内のフードバンク団体全体の底上げを行い、各地域で対応可能となるよう支援の輪を広げていく必要がある。 民間の病院・福祉団体などと連携し「生活相談機能を有した食品配布会」を実施することで、行政を巻き込んだ支援活動を展開する。

入力数 790 字

III.事業内容

(1)事業の概要
2021年7月から2022年2月までの期間中に全7回の主催食品提供企画を実施しての生活困窮者支援を行うと共に食品ロス削減への貢献。当団体の「総合相談支援」や「情報発信」のノウハウを他団体に提供するための栃木県内のフードバンク団体・支援団体・活動に興味がある人を対象に行う勉強会の開催。行政機関を対象に行う勉強会の開催。2022年度以降は3ヶ月に1度発行することを目標としての「栃木県内のフードバンク団体について」の情報誌を創刊する。宇都宮市泉が丘支所の地域支援拠点としての食品提供機能強化。宇都宮市市街地に新たな食品倉庫を借り、改修すると共に食品寄付受け入れ機能強化と冷蔵・冷凍設備の導入。

入力数 296 字

(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態
助成期間中のきずなセット提供数を前年同月の953件から1.5倍の1430件を提供。フードバンク団体内外に向けての勉強会の実施により活動への理解と連携を深め、相談機能を有したフードバンク団体を最低2ヶ所増加させる。2022年度以降に3ヶ月に1度の頻度で栃木県内のフードバンク活動・団体情報誌を発刊可能。泉が丘支所、及び新倉庫の備品購入・設置・改修が完了し食品寄付受け入れ機能強化がなされている状態。

入力数 198 字

(3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	実施・到達状況の目安とする指標	把握方法	目標値/目標状態	目標達成時期
<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県内で1,430セット以上の食品パッケージを提供することによる生活困窮者支援がなされた状態。 ・4回の栃木県内のフードバンク内外への学習会を実施し、相談機能を有したフードバンク拠点が2ヶ所以上増えた状態。 ・県内フードバンク団体情報誌を創刊し、2022年度以降に3ヶ月に1度発行するための準備が完了している状態。 ・宇都宮市役所付近に新たな食品倉庫を確保し、食品受け入れ機能の向上、及び冷蔵・冷凍設備が完備されている状態。 ・泉が丘支所の改修・整備が終了し、2022年度以降、食品受け入れ体制の強化・事業開始の準備が完了している状態。 	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県内全域での食品パッケージ「きずなセット」提供数 ・栃木県内のフードバンク団体内外への学習会の参加人数 ・相談機能を有したフードバンク拠点の増加数 ・県内フードバンク団体情報誌発行数 ・泉が丘支所の整備状況、及び新倉庫の運営状況 	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県内全域での「きずなセット」提供数のカウント ・フードバンク団体内外への学習会への参加人数カウント ・相談機能を有したフードバンク拠点の増加数カウント ・県内フードバンク団体情報誌発行数のカウント ・泉が丘支所の状況把握、新倉庫の状況把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・きずなセット提供数実績1,430件 ・フードバンク団体内外への学習会への参加人数100人 ・相談機能を有したフードバンク拠点を2ヶ所以上増加させる ・県内フードバンク団体情報誌を創刊（最低1回）している ・泉が丘支所の整備が完了している。新倉庫の稼働が開始されている。 	2022年2月

(4)活動	時期
●きずなセット提供プロジェクト：2021年8月以降毎月1回実施。全7回のうち2021年12月は栃木県内のフードバンク団体と連携しての同月配布会を実施。	2021年8月～2022年2月
●内向き勉強会：総合相談支援、情報発信のノウハウを栃木県内の他フードバンク団体・県内の支援団体・活動に興味がある人に提供するために実施。	2021年8月・2021年12月
●外向き勉強会：行政・社会福祉協議会・民間支援団体向けに、フードバンク活動の認知度を高め困窮者へのアクセス向上など連携するために実施。	2021年10月・2022年2月
●栃木県内フードバンク団体の情報誌創刊：取材・聴き取り・状況把握・設置先開拓などを行い内容を充実させた保存版となりえる情報誌を作成。	2021年7月～2022年2月
●新たな食品保管倉庫の確保：宇都宮市街地に食品倉庫を借り、食品寄付を受け入れのキャパシティを向上。更に必要箇所の補修、冷蔵・冷凍設備の導入。	2021年7月～2022年2月
●泉が丘支所の補修・改修：泉が丘支所の地域支援拠点としての食品提供・受け入れ機能強化と居場所事業開始前の下準備。	2021年7月～2022年2月

IV.事業実施体制

(1)メンバー構成と各メンバーの役割	①副理事長。本事業の責任者。備品購入・領収書管理・人員管理など。②理事長。事業全体の補助業務・他団体との連絡・現金出納など。③相談対応統括者。社会福祉士。総合相談支援の学習会・配布会場での相談対応など。④事務局長。事業全体の補助業務・助成金申請に係る事務作業・会計責任者・行政機関向けの学習会開催に向けての原稿作成など。⑤事務局次長。事業全体の補助業務・チラシやパンフレットの作成・フードバンク団体の情報誌編集長・行政機関向けの学習会開催に向けての資料作成など。⑥コアボランティア。事業全体の補助業務・相談対応のフォロー・その他雑務全般など。 ・上記6名を中心にボランティアメンバー約30名で事業運営を実施する。
(2)他団体との連携体制	栃木県内のフードバンク団体（フードバンクもおか・フードバンクあしかが・フードバンク県北・フードバンク那須烏山・フードバンク日光・フードバンクさの、など）と連携して食品配布会を実施する他、相談業務・情報発信・倉庫作業などのノウハウを提供する。 とちぎコープ生活協同組合などの民間企業、JAうつのみやなどの民間団体、済生会宇都宮病院・報徳会宇都宮病院・栃木保健医療生活協同組合を中心とした民間病院、栃木県精神保健福祉士会・栃木県社会福祉士会を中心とした福祉資格管理団体、一般社団法人若年者支援機構・社会福祉法人とちぎYMCAなどの民間支援団体、ちゅんちゅんこども食堂すずめのすなどのこども食堂、ほっこりーるるなどの学童保育、各種行政機関と連携して事業を進めていく。
(3)想定されるリスクと管理体制	<ul style="list-style-type: none"> ●新型コロナウイルス感染症関連：活動参加メンバー以外に不特定多数が関与する事業であるため、業務開始前の設備消毒、来所者の検温・手指の消毒、来所者の氏名・体温・連絡先・滞在時間の記録、相談スペースにビニールの仕切りを設置、マスク着用の徹底、室内換気の定期的な実施、ソーシャルディスタンスの確保などを行う。 ●事業実施関連：助成期間内に新しい倉庫の確保ができなかった場合は食品寄付量が増加しても受け入れが滞る恐れがある。理想は現状の食品倉庫より広い倉庫の確保だが、必要に応じて現倉庫と併用する形で複数倉庫の運用をする必要がある。

V.関連する主な実績

(1)休眠預金以外の助成・補助金活用の有無				
コロナウイルス感染症に係る事業				
①本申請事業について、コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)	有 <input type="checkbox"/>	無 <input type="checkbox"/>	有の場合 その詳細	
②本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない	無 <input type="checkbox"/>	※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）		
(2)申請事業に関連する調査研究、連携の実績				